

5月度議員懇談会

水素エネルギーの利活用について懇談



5月度議員懇談会を4月28日午前11時から福井商工会議所ビルで開催し、64名が出席した。

開会にあたり八木会頭は、3月25日から4月9日まで開催されたふくい桜まつりについて触れ、「好天に恵まれた満開の桜のもと、多くの家族連れが楽しんでいる姿が見受けられたことが印象に残った」と語った。自身も電動カートの「ふくトウク桜BUS」に乗り込んだエピソードを紹介。また、当所の新幹線開業対策プロジェクト「SOBAR」を始め、グルメブースの活況ぶりも窺えたと振り返った。



開会の挨拶を行う八木会頭

新幹線開業1年前にあたり多くの方が楽しめる企画を創出しながら盛り上げていきたいと述べた。また、このようなイベントは実際に足を運んでこそ楽しみを感じられるものであり、各種イベント開催時には積極的に足を運んでほしいと呼びかけた。

続いて懇談に移り、一般社団法人ふくい水素エネルギー協議会の羽木秀樹事務局長より「福井県における『水素』の利活用について」をテーマに講演が行われた。

羽木氏はまず、地球温暖化の現状と対策について触れ、地球温暖化の要因となる温室効果ガスには二酸化炭素(CO₂)以外にもメタン、一酸化二窒素やフッ素などがあることを示し、「CO₂以外の要因にも注意する必要がある」と述べた。また、排出される温室効果ガスの約8割を占めるCO₂の発生要因については、火力発電や製鉄、自動車等の排出によるものが大きいことを紹介。その抑制に向けて、日常生活や事業活動における燃料転換も検討すべきとした。

福井県内における水素エネルギー活用の将来ビジョンについては、原子力発電で生まれる余剰電力を水素に替え、貯蔵し使用する構造構築の可能性に言及した。また、「水素から電気を生み出す燃料電池の開発普及も必要で

ある」と述べた。

加えて、県内における水素社会の構築に向け、水素に関連した地域的な部材開発・製造や、エネルギーネットワークの形成に関する提案があった。



水素エネルギーの利活用について講演する羽木氏

最後に、福井商工会議所青年部の令和5年度活動方針について、佐藤宏隆会長より発表が行われ、まちづくり・ひとづくり・自己研鑽の3つの柱を掲げ、積極的な事業運営に取り組み意向が示された。

【議員異動】(敬称略)

オカモト鐵工(株)

(旧)岡本 征雄(取締役会長)

(新)草壁 正明(代表取締役社長)